学校でのいじめやハラスメントの長期的影響と家族状況が及ぼす効果

岩本健良（金沢大学）

１．背景と目的

社会疫学の進展により、「子ども期の逆境体験（ACE）」が成人後の健康等にまで大きな負の影響をあたえることが国際的に着目され（Berkman, 2014）、2010 年代以降、日本でも調査研究がなされている。ACE 研究での逆境としては、親からの暴力や虐待・親との別離など家庭に関する影響が中心に扱われてきた。しかし学校でのハラスメントやいじめが成人後までどのような長期的影響を及ぼすかについては、日本での研究はまだ皆無に等しい。特に性的指向や性自認に関する逆境体験の量的研究は手付かずといってよい。日本において性的指向や性自認に関する逆境体験（SOGI ハラスメント）の長期的影響は存在するのか、その影響は年を重ねるにつれ減少するのか否か、またそうした影響は成人後の家族状況により緩和されうるのか、こうした点を量的データに基づき検証する。

２．データと主な変数

2023 年に実施された「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」（釜野ほか、2023）のデータを用いる(JSPS 科研費 JP21H04407、代表：釜野さおり)。この調査は層化二段無作為抽出法により日本在住の 18～69 歳の 18,000 人を対象に郵送調査（ウェブ回答併用）を行ったものである（有効回答数 5,339、有効回収率 29.9%）。

被説明変数は、メンタルヘルスを表す K6 得点であり医学領域でよく用いられる。最近 1 か月間に「神経過敏に感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」といった 6 項目の指標の合計点で、点数が高いほどメンタルヘルスが悪い状態である。中心的な説明変数は、小学校から高校時代の間に「ホモ」「おかま」「レズ」などの不快な冗談やからかいを受けた経験（以下、言葉による SOGI ハラ）の有無、および「ホモ」「おかま」「レズ」などといったことで振るわれる暴力行為（以下、身体的 SOGI ハラ）を受けた経験の有無である。

３．分析結果

K6 の平均点を比較すると、言葉による SOGI ハラを受けた人（6.6 点）は受けなかった人（4.2 点）より有意に高く、まだ身体的 SOGI ハラを受けた人（8.7 点）は受けなかった人（4.3 点）より有意に高い。年齢 10 歳刻みで比較すると、どの年代でも同様の傾向がみられた。またどちらの SOGI ハラについても、受けなかった人の K6 は、年齢とともに低下傾向にあるが、受けた人は低下がほとんどみられない。

K6 を被説明変数とし、言葉による SOGI ハラ、身体的 SOGI ハラに加え、家族状況の 3 変数（法的配偶者の有無、（法的婚姻関係にない）パートナー（事実婚・内縁関係・同棲関係・同性パートナーを含む）の有無、子どもの有無）、年齢、性別を加えて、重回帰分析を行った。その結果、言葉による SOGI ハラ経験、身体的 SOGI ハラ経験、女性であることは K6 を高め、法的配偶者がいること、年齢は K6 を下げるが、パートナーや子どもの有無は有意な効果がみられなかった。すなわち、家族状況の効果は限定的である。

４．まとめと考察

学校での言葉による/身体的な SOGI ハラは、成人後も 60 代以降までメンタルヘルスに悪影響を及ぼし続けている。これはこれまでの ACE 研究とも一貫・対応する知見である。本分析は横断的調査に基づくが、調査対象者の年代幅の中では SOGI ハラが大きく変化したとは考えにくく、長期的影響の存在は否定しがたい。本分析から、学校での性の多様性に関する教育の充実と人権保障が早急に求められる。また同性カップルに関して、心穏やかな生活を送るためにはパートナーシップ制度ではなく同性婚の権利保障が重要であることも示唆している。

文献

Berkman, LF, Kawachi,I, Glymour, M.M. 2014. *Social Epidemiology.* 2nd ed. Oxford Univ. Press. （高尾総司ほか監訳 2017.『社会疫学』（上・下）大修館書店）

釜野さおりほか 2023.『「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」の結果概要』 https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI2/

（キーワード：子ども期の逆境体験（ACE）、SOGI ハラスメント、LGBTQ）